

PR アンケートモニター募集中



アンケートに答えるだけ！2万円の報酬を受取る人も。



覚書を結んだスカイエナジー、理研興業幹部ら＝スカイエナジー提供



太陽光発電設備製造大手のスカイエナジー社（日立ハイテクノロジーズ出資）は、日本の交通標識灯技術を導入して太陽光パネルと融合した新製品を開発する。西ジャワ州ボゴール県の本社で9日、道路交通資材製造などの理研興業（本社・北海道小樽市）と共同開発の覚書（MOU）を締結。道路の夜間走行を安全にする「ガードケーブル型視線誘導標」をインドネシア仕様にしていく。

年内に北海道の高速道路300メートル区間で4メートルごとに設置して実証実験を行う。2019年中には日本国内で計100キロへの設置を目指す。並行してインドネシアでも実証実験を実施し、実用化を進める。

理研興業は創業64年。防雪柵や道路資材・防災関連製品の製造、販売を官公庁向け主体に行っている。スカイエナジーが属する、インフラビジネスを広く展開するトリニタングループのコスト競争力がある樹脂製品、LED（発光ダイオード）技術との融合も進め、インドネシア国内ですべて生産する体制を整える。日伊両国での販売、さらにはアジア近隣国への販売網構築を目指す。